

2017
四季の「サト」だより

2017年10月1日発行

浜松音楽友の会

事務局：〒430-0904浜松市中区中沢町44-11

電話連絡(053)473-3579(原)

e-mail:hamatomo@palette.plala.or.jp
http://www6.plala.or.jp/hamatomo/

「探し求める」

サクソフォン奏者 須川展也

浜松音楽友の会の皆様、この度はリサイタルを開催していただき本当にありがとうございました。浜松で演奏できることは、普段と違う感激があります。お世話になった多くの方々や両親への感謝の気持ちをさらに音楽に込められるからです。一音一音吹いた音の残響を、素敵な響きを持つアクトシティホールで味わいながら、2時間音楽に没頭できました。

浜松市立南陽中学時代に吹奏楽部でサククスに出会い、クラシックの世界にもサククスがあることを知り、その「天から降るような透明な美しい音」に感激しました。その時、この音を多くの人に伝えたいという気持ちを抱き、その気持ちを持ったまま現在の自分がいます。

長年かけて少しは社会にクラシカル・サククスの魅力を伝えて来ただろうか、と思う今日この頃です。それは、全国に、浜松音楽友の会のように、純粹に音楽を多くの人に伝えたいという気持ちの皆さんがいるからなのです。本当にありがとうございます！これからも音楽の魅力を探し求める方々に、たくさんの笑顔を届けるよう研鑽を積んで行きます。

さて、私は30年間以上の演奏活動が続ける中で、サククスの魅力をさらに知っていただけるように、新しいレパートリーを探し求めて続けてきました。コンサートのニーズに応え、自分のモチベーションをも高め、さらにサククスのレパートリーの新たな発展にもつながるような、そんな曲を常に求めてきました。

例えば、極上の美しい音色を必要とされるクラシックの名曲のアレンジ作品として、「カッチーニのアヴェ・マリア」がその例です。また聴き手の皆様に楽しんでいただけるようなジャズテイストの曲も、たくさんアレンジしていただきました。

さらに、サククス界の発展に少しでも寄与できるように、著名な作曲家に曲の委嘱を続け、新たな新しい曲がいくつも誕生しました。今年春に浜松で演奏した吉松隆さんの「サイバーバード協奏局」はその中の代表例で、今や世界

中に広がって様々なサククス奏者たちに演奏されています。新たなレパートリー開拓を続ける一方で、常に自問自答している自分がいました。

「コンサートでお客様にはどうしたら楽しんでいただけるか？演奏家のエゴだけに偏ってないか？」様々な思索と経験を積んだ末に辿り着いたのが、今回の浜松音楽友の会で演奏したプログラムです。今までの集大成ともいえると思います。皆様いかがだったでしょうか？

今、私の中で強く考え続けていること、それは、「サクソフォンの演奏に、皆様から何を求められているのか？音楽界でのサクソフォンの役割は何だろうか？」ということなのです。

クラシックのジャンルでは今、「珍しいから聴いてみよう」という時代は終わりつつあるのではないのでしょうか。たくさんの情報が溢れるこの時代ですから、演奏家はより一層、この楽器の魅力が何であるか、ということを知りやすく提示して、皆様の感動を引き出さなければなりません。曲のジャンルとかスタイルだけではなく、その方にとって音楽を聴く喜びにつながる「何か」を見つけていただけるような演奏を提供しないといけないと思うのです。大切な時間を割いてお越しいただくのですから、その場所で感動を共有し合わなければなりません。たくさんの方々と一緒に音楽の感動を分かち合うことは、とてつもなく難しいことだと思っています。

「サクソフォンとは何か？」を探し求めていく。それは、私がこれからもずっと避けて通れないテーマです。追い求め続け、さらに歳を重ねた時に、より崇高な音楽の世界をお聞かせできるかもしれません。そこでこそ「感動の共有」ですね！その時までまた音楽に没頭して、何かを探りながらがんばります。ぜひ皆さん！いつかまた聴きにいらしてください。



「春のコンサート」4月14日

シューマン・クアルテット 日本ツアー 2017のお礼

チェロ奏者 マーク・シューマン

私たちは今年6月に3度目となる日本ツアーを行いました。10日間で6つのコンサートを、浜松を含む5都市で開催しました。

クアルテットとして4人で日本にて演奏するのは、いつも特別な瞬間です。エリック、ケン、そして私（マーク）は実の兄弟で、半分は日本人の血が流れています。私たちの母が日本人なのです。

私たちのヴィオラ奏者のリザ・ランダルはエストニア出身ですが、彼女は私たちを通して日本に大変親しみを感じています。私達はいつも日本の美味しい食べ物や美しい文化を心から楽しみ、そして何よりも各地での温かい聴衆のお客様と、素晴らしい音響のコンサートホールに毎回とても感激しています。

今回のツアーは、第一生命ホール（東京）からスタートしました。次は名古屋で、初日には私のソロ・リサイタルを行い、その次の日には宗次ホールにてクアルテットの公演を行いました。宗次ホールには、毎ツアーごとに呼んで頂いていて今回で3回目でした。



「夏のコンサート」6月15日

ツアーのハイライトは、次に訪れたアクトシティ浜松中ホールでした。会場は約1,000席、室内楽ホールとしてはかなり客席数が多い。当日は非常にたくさんのお客様にいらしていただき大感激でした。またクアルテットを演奏する会場として、我々は桁外れに優れたこのホールの音響に非常に感銘を受けました。この音響は私たちの演奏を支え、ホールと演奏の完璧な調和を感じました。素晴らしいホールとお客様が、私たちに音楽を新たに創造することを促してくださいました。

私たちは、この浜松のような素晴らしい音響の室内楽ホールがヨーロッパにもっとたくさんできることを願っています。

その後クアルテットは、私達の母親の故郷である大阪へ。ザ・フェニックスホール公演では、初代ヴィオラ奏者をつとめてくれた後藤彩子と、母方の大勢の親戚とのともうれしい再会をしました。

再び東京に戻り、第一生命ホールで2回目の演奏。その後、最終公演を秋田県大仙市中仙市民会館で無事に終えました。

私たちは素晴らしい日本のお客様と、ツアーを可能にしてくださいるすべての関係者の皆様に感謝しています。再び日本に帰れることを心から祈りつつ。



華麗なテクニック

友の会会員 千賀信幸

「浜松音楽友の会」に入会いたしまして5年目になります。長い歴史のある四季のコンサート。まだまだ新参者ですが、はまホールで2年、アクトで2年、楽しませていただいています。私が豊橋在住ということもあり、浜松までは車で1時間、JRで35分とやや距離があるため、仕事の都合上やむなく、欠席させていただいていることもあります。

この4年間どれも素晴らしいコンサートばかりですが、特に印象深かったのは会場が、アクトシティ中ホールに移った年、約30年ぶりに生演奏を聴いた「工藤重典フルートリサイタル」です。演目もドブラーのハンガリー田園幻想曲とプーランクのソナタ。

当時すでに世界のトップフルーティストとして活躍され

ていた工藤さんは、留学経験から「フランスのエスプリを感じさせる・・・」なんて文字で表現されていました。時にか細く、また、抜けるようにシャープな高音は華麗なテクニックと相まって聴衆を大いに魅了していました。四季のコンサートでも還暦を過ぎてでもなお素晴らしい演奏を聴かせていただきました。やはり、奏でられる音楽は、工藤重典的超一流技巧とハリのある音色の美しいフレーズでした。

実は、四季のコンサートの1年ほど前、渋谷の駅で工藤さんをお見受けし、また聴けたらいいな、なんて思ったことも思い出しました。これも何かの縁でしょうか？今後とも素晴らしい演奏を、楽しませていただきたいと思います。

2018年 四季のコンサート 予定

各回共 於：アクトシティ中ホール

春 小林沙羅 ソプラノリサイタル 4月11日(水)

東京藝術大学及び同大学院修了。2010～2015年ウィーンとローマにて研鑽を積む。2006年の『バスティアンとバスティエヌ』でデビューした後、東京芸術劇場シアターオペラシリーズ等に数多く出演。2012年ソフィア国立歌劇場『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタで欧州デビュー後、海外での活動の幅を広げる。2015年には野田秀樹演出、井上道義指揮『フィガロの結婚』の Suzanne 役で好評を博し、2017年に『カルメン』ミカエラ役で藤原歌劇団への初出演を果たしました。2016年に、セカンドCD「この世でいちばん優しい歌」をリリース。2017年、第27回出光音楽賞受賞。透明感のある歌声と華やかな舞台姿、クラシック新時代の歌姫の魅力をお楽しみください。

夏 鈴木優人(チェンバロ)とBCJ(バッハ・コレギウム・ジャパン)の仲間たち 7月2日(月)

東京藝術大学及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。鍵盤奏者(チェンバロ、オルガン、ピアノ)および指揮者としてバッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)や横浜シンフォニエッタなど国内外の公演に多数出演。調布音楽祭のエグゼクティブ・プロデューサー、そして舞台演出、作曲と、その活動に垣根はなく、類まれな才能に各方面から大きな期待が寄せられています。今秋、モンテヴェルディ「ボッペアの戴冠」をプロデュース&指揮し、初のバロックオペラに挑戦する予定です。浜松の公演は、バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)の木管奏者2名とのトリオで登場します。

秋 第10回浜松国際ピアノコンクール開催記念イベント 上原彩子 ピアノリサイタル 10月5日(金)

第12回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門において、日本人として初めて第1位を獲得。第18回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞を受賞。これまでに国内外で数多くの演奏活動を行ない、ヤノフスキ、ノセダ、ルイジ、ラザレフ、ブラビンス、ペトレニコ、小澤征爾、小林研一郎、飯森範親、各氏等の指揮のもと、ソリストとして国内外のオーケストラと共演しています。2004年には、デュトワ指揮のNHK交響楽団と共演し、同年度のベスト・ソリストに選ばれました。第4回浜松国際ピアノコンクールでは、第2位および日本人作品最優秀演奏賞を受賞しています。卓越したテクニックと表現力で進化を続ける、極上の演奏をお楽しみください。

冬 小山実稚恵(ピアノ) & 川本嘉子(ヴィオラ) デュオリサイタル 12月3日(月)

人気・実力ともに日本を代表するピアニスト小山実稚恵と、当代随一のヴィオラ奏者の川本嘉子の2人が共演します。小山はチャイコフスキー国際コンクール(1982)、ショパン国際ピアノコンクール(1985)の2大コンクールに続けて入賞。以来、今日に至るまで、コンチェルト、リサイタル、室内楽と、常に第一線で活躍し続けています。その深い音楽性あふれる演奏は、聴く人の心をとらえて離しません。そして、ジュネーヴ国際コンクール ヴィオラ部門で最高位、また、村松賞、新日鉄音楽賞等を受賞し、その後、東京都交響楽団首席奏者を経て、現在はNHK交響楽団首席客演奏者、ソリスト、室内楽奏者として活躍しているヴィオラ奏者の川本。この円熟した2人の、温かく魅力あふれるデュオをご堪能ください。

★会員の皆様へのお願い★

会員日より 皆様の原稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚以内で。テーマは自由です。

会員登録は、年度が変わってもそのまま登録されます。

退会希望の方は、ハガキに住所、氏名、電話、会員番号をご記入の上、前年度の12月末日迄に、事務局宛に退会の旨をご連絡ください。

名義変更の方は、ハガキに旧会員と新会員の住所・氏名・電話・会員番号(旧会員の)をご記入の上、事務局までお送りください。

保育室ご利用の方は、コンサートの前日までに、岡本 ☎053(466)5417 までお申込みください。

開演時(開演30分前)から終演までお預かりします。1回500円です。

●インタビュー・花束贈呈係を募集しています。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

個人情報取り扱いについて

当会は個人情報の取り扱いについて「個人情報の保護に関する法律」及びその他の関連法令及びその他の規範、ガイドラインを遵守し、個人情報について適切な管理・取り扱いと保護に努めます。